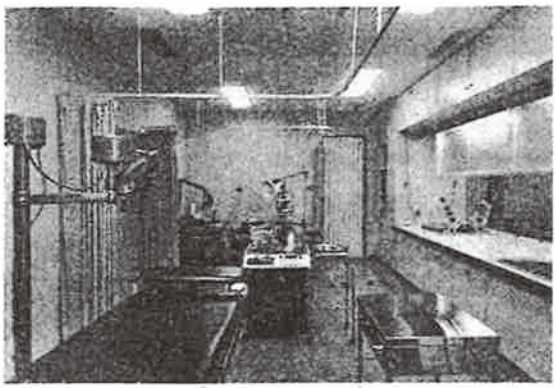
新築に際して

眼科　森井文義

月日がたつのは早いもので、昨年９月に父の跡を受け継いでから、６ヵ月が過ぎさりました。浜大津のこの地に父が眼科医院を開業してから22年。もともと以前あった日本家屋の建物は隣の岡地家の先代が鳥料理の料亭をしていた頃の新館として建てられたものだそうで、父が大津日赤をやめて、開業する時に、購入したものです。開業当初はその建物をそのまま医院として使っていました。そして後に前庭にあたる部分に、鉄筋コンクリート二階建てを増築し、診療室と病室にあてたのです。

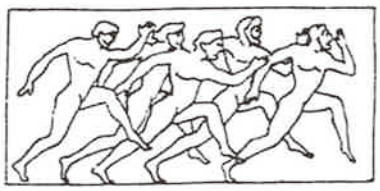
残った日本家屋の二階は開業以来、依然として入院部屋として使用されていました。料亭の二階ですから、いわゆる宴会場で畳の部屋で立派な床の間のある大広間でした。私が跡を継ぐに当り、まずこの入院部屋をなんとか近代的な設備にしたいと考え、由緒ある建物かもしれないが、老朽化もしているし、何とか撤去して、新しい建物をた



診療室

てたいと申しましても、頑として応ぜず、口説くのに一年程かかりました。その内、地続きの奥の土地を売るというので、購入し、約70坪ぐらいの所へ鉄骨造４階建を建築し、一、二階を診療部門、三、四階を住宅部門とする青写真ができあがり、設計管理を地域計画、建築研究所、施工を安藤建設にお願いし、昭和54年12月27日、地鎮祭を行い、スタートしました。その間、色々問題もありましたが、良き友、良き協力者にめぐまれ、なんとかきりぬけ、昨年８月中旬にやっと新築工事は完成し、続いて前の部分の改築にとりかかり、昨年末に完成しました。

すが、これもひいては患者さんのためになると思ってある程度はがまんいたしましたが、何千万もする器械は一開業医ではどうかと思います。色々と書いてきましたが、父の跡を受け継ぐことのむつかしさ、従業員の再教育の問題、ばく大な借金の返済など色々の難問をかかえていますが、先輩の先生方の御指導と御鞭達をたまわりまして、この苦境をのりこえ、〝患者さんからいただいたお金は、患者さんに環元する〟をモットーにこれからも、がんばっていきたいと思っております。今後ともよろしくお願い致します。

手術室

この間、一日たりとも医業を休むことなく、工事を進めなければならず、大変でした。私がこの医院建築に当って、まず主張したことは、何といっても、患者さんは神様であり、患者さん本位の医院にしたいということであり、そのため、とくに視力障害の人の多い眼科ですので、階段はなるだけ避け、スロープで吸収し、一階から二階への階段も、段差が低く設計されています。また照明もなるだけ明るくし、ＢＧＭを流し、ゆったりした気分で診療が受けられるよう努力致しましたが、どうした結果になっているのか、一度又、落ち着いて、聞いてみたいものです。最近の医学の進歩は目ざましく、とくに眼科では、マイクロサージァリーが導入されてからの変化は大きく、今までの手術器具は全く使えなくなり、新しく購入しなければならなくなりました。実際、「近代医療」では検査器械、手術器械にばく大な費用がかかりま